

## 令和5年度 第4回可児市上下水道事業経営審議会議事録

【日 時】 令和6年2月15日（木曜日）午後2時00分から午後3時00分まで

【場 所】 可児市役所4階第3会議室

【出席者】 審議会委員10人、事務局9人

### 1. 会長あいさつ等

【会長あいさつ要旨】

本日はお忙しいところ、会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。令和5年度第4回目の経営審議会を開催したいと思います。

【定足数】

会長より定足数（10名出席）を満たすことの説明。

【議事録署名者】

会長より議事録署名者として高橋委員と前田（伸）委員の指名。

### 2. 議題

議題について事務局説明と質疑応答を行った。

- (1) 諮問事項：「可児市水道事業の適正な料金について」答申まとめ
- (2) 可児市水道事業経営戦略について
- (3) 令和6年度可児市水道事業会計予算について
- (4) 令和6年度可児市下水道事業会計予算について

発言者：☆=会長 ○=委員 ●=事務局

【議題（1）可児市水道事業の適正な料金について（答申）まとめ】

～会長による答申案まとめ～

☆これまでの審議会での事務局説明や議論の内容について、事務局と打ち合わせてとりまとめた答申案を私の方から説明する。

<答申内容>

現行の料金が妥当であると判断し、据え置くことが適当である。

<理由>

①県から水を購入している割合は高いが、現時点で有収率が高く、工事等へのコスト削減

にも取り組んでいる。

- ②人口減少による減収はあるが、耐震化・老朽化への投資は必要である。
- ③維持管理費の物価上昇を加味しても投資が続けられる。
- ④人口に推移により料金収入は変わるが、国立社会保障・人口問題研究所発表の「地域別将来推計人口」を用いた試算においても今後5年間の水道料金収入は大きく変わらない。
- ⑤電気代等様々な物に対して物価高騰が見受けられるが、水道料金まで値上げするのは現実的ではなく今回は値上げしなくてもよいと考えられる。

以上を加味し、今後5年間については水道料金を据え置くこととする。

<附帯意見について>

- ①経費削減については引き続き努力されたい。
- ②給水人口の推移、物価高騰や金利上昇の変動も考慮しながら、定期的に見直しを実施されたい。
- ③可児市は水を県から購入しているため、県の動向には注視されたい。
- ④災害時における断水対策に対する耐震化対策等への投資については、その重要性を再認識されたい。
- ⑤長期的な視点では、物価高騰等の影響でこれからも水道料金を維持もしくは値下げするのは難しく、将来的には値上げを検討する可能性もある。

以上、答申内容について意見はあるか。

○意見なし

#### 【議題(2) 可児市水道事業経営戦略について】

○収益的収支と資本的収支について、これらは各年度単位での収支なのか。また、民間企業が作成するような貸借対照表は企業会計では作成しないのか。

●各収支については年度単位での収支である。貸借対照表や損益計算書は決算では作成するが、経営戦略上においては掲載していない。経営戦略は、今後10年間の年単位における収支に着目して、そのお金の動きを中心に作成しているため、ストック情報である貸借対照表は作成していない。決算書の貸借対照表はホームページ等で公開しているため確認していただける。

○外部資産（保険の積立等）はないのか。

●そのような簿外資産はない。

☆地方公営企業会計では、収益的収支と資本的収支は損益計算書が2つに分かれているというイメージである。

○資料1の14ページにおいて、「DXに関する事項」が掲載されているが、具体的な取り組みについて教えてほしい。

●水道メーターの検針にスマートメーターを活用するという方法もあるが、単価が高く可見市においてはまだ導入に至っていない。他市において部分的に導入している市もあるが、費用対効果も勘案しながら慎重に検討する必要がある。

施設の運転監視については、水道庁舎の中央監視室で一括監視し、遠隔操作も行っている。管路の保全管理については、流量計を取り付けることで漏れを早く検知する技術はあるが、まだ費用面や全国的な実績の面で導入には至っていない。

○毎月、検針人が来なくても検針できるシステムがあるということか。

●スマートメーターというものを導入すれば検針を自動化できるが、1機あたりの金額が高く可見市ではまだ導入には至らない。東京のような大都市や豊田市のように大規模な住宅開発に伴う電気・ガスとの連携による試験的導入はあるものの、全国的にもまだ導入が進んでいない認識である。将来的には導入費用が安価になれば導入する可能性はある。DXに関しては、すぐに取り組むということではなく、長期的な視点での課題を挙げている認識である。

☆スマートメーターは検針箇所近くにバッテリー等の電源が必要となることから、費用も高く、導入する自治体は少ないように感じる。人件費が高騰し、スマートメーターを導入した方が安価になれば徐々に導入する自治体も増加するかもしれない。

○今回の経営戦略は初めての改訂なのか。

●3回目であり、これまで概ね3年に一度見直している。初めて作成した平成25年は中長期収支計画という名称であったが、総務省が経営戦略という名称を用いているため、今回の改訂で経営戦略という名称に変更した。

○水道整備基本計画や経営戦略等、計画が多々あり一般市民には非常にわかりにくいと考えるがどうなのか。

●将来的には 1 つの計画になる可能性がある。水道整備基本計画と経営戦略の投資計画の数値は作成年度がずれるため、時期的な整合性が取れていない。全てを同じ時期に作成すれば、各計画で用いる数値も同時に最新となり整合性もとれる。

来年度から、水道事業の所管が厚生労働省から国土交通省と環境省に変わるため、新たな計画策定を求められる可能性もある。

○水道整備基本計画や経営戦略に従って市の予算を組むのか。

●そうである。

☆ビジョン・整備計画・経営戦略は全国どこの市町村でも作成しているものであり、数値のずれや矛盾というものはどこも生じている。

### 【議題（3）令和6年度可児市水道事業会計予算について】

☆3月議会で議決されるまでの予算プロセスを教えてください。

●現在予算案を作成し3月議会に上程する準備を行っている。2月28日に建設市民委員会所管の予算案を予算決算委員会で説明し、議会で議論していただく予定である。

### 【議題（4）令和6年度可児市下水道事業会計予算について】

○管更生において、樹脂で補修すると口径が細くなるのか。

●5ミリ程度の厚さとなるため、補修後は上下で1センチ程度口径が小さくなる。通常多く用いられる下水道管の口径200ミリの管というのは、水量の余裕率が100%で設定されており、倍の水量が流れても大丈夫のように設計されている。よって、1センチ程度口径が小さくなったとしても問題ない。

○施行後の耐用年数は延びるのか。

●新設した管と同様に50年となるため、耐用年数は50年延びることとなる。

☆国の補助金を使う補助事業とそうでない単独事業はどのように決まるのか。

●水道事業においては、全国的に問題となっている耐震化事業等は補助金がつく事業が多いが、老朽管の整備工事等には補助金があまりつかない。よって、補助が使える事業に係

る工事を優先的に行うことで、補助金を有効に活用するよう工事を実施している。

下水道事業については、ストックマネジメント計画に基づく工事は補助事業となる。また、基本的には管によって補助事業と単独事業が分かれる場合が多く、雨水対策事業の雨水出水浸水想定区域図策定業務のように、策定しないと今後の補助がつかないような補助事業もある。

○大雨でマンホールが溢れるシーンをニュースで見かけることがあるが、可児市でも起こる可能性があるのか。

●大雨が降ると污水管にも雨水が流入し、マンホール蓋が持ち上がるほど溢れることは過去にもあった。雨水管においても、集中豪雨で一気に雨が降ると水が溢れ出ることがあり得るため、点検と対策を講じていきたい。

### 3.その他

- ・今回議論いただいた答申案の案をとったもので、来週 19 日に会長と副会長より市長へ答申を行う予定である。
- ・任期は令和 5・6 年度となっておりますが、選出団体の役員交代等があれば事務局に連絡していただきたい。

(会議終了)